



## 農協だより

Vol. 38 URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成21年10月

## 野菜栽培講習会のご案内



10月9日午後1時30分より、JA安芸萩原支店にて野菜栽培講習会を開催します。秋から冬に播く野菜について講習をいたします。どなた様も参加できますので、ぜひお越し下さい。

水田土壌の **土 壌 診 断** について

JA安芸では品質の良い米作りと適正な施肥管理のため、水田の土壌診断を実施致します。(分析はJA西日本肥料研究所で行います。)診断した土壌は、個々に土壌診断処方箋を作成して申し込み者へ送付いたします。ぜひこの機会に土壌診断を受けられることをお勧めします。申込は下記の通り行いますのでよろしくお願い致します。

— 記 —

- ① 診断項目 PH・有効態りん酸・遊離酸化鉄・有効けい酸・腐植
- ② 土壌提出先 JA安芸 各支店購買窓口及び熊野購買センター
- ③ 提出期限 平成21年10月23日(金)
- ④ 検査の費用 土壌1点につき実費 525円(土壌を出される時に一緒に支払ってください。)
- ⑤ 土壌サンプルの取り方 別紙添付しておりますので正しく取ってください。  
注) 乾燥して粉碎してふるいをかけた物でないと引き受けできません。土はビニール袋に入れて氏名、住所、電話番号、土の区分のわかるものを付けてください。
- ⑥ 土壌診断結果 個別にお知らせ致します。(12月の予定です。)
- ⑦ 土壌診断を行うメリット
  - 圃場の土壌状態がわかる。
  - 土壌診断結果をもとに施肥を行い、土壌中の肥料バランスを整えることができる。
  - 土壌診断を行い適正・過剰な成分があった場合は、減肥できるためコストの低減ができる。



## 小学3年生がJA安芸東海田支店を見学

9月11日(金)海田南小学校の児童35名、先生2名がJA安芸東海田支店を「総合学習時間の私の町の自慢施設」で見学に来られました。JAの信用事業、購買事業について学習されました。農産物についての質問も多くありました。その中で、特に地元の農家の方が、何をやってどのように販売しているかという質問に対して、JA安芸では、地球にやさしい地産地消に力を入れて、地元の農家の方達が活菜倶楽部と言う組織を作り地元のAコープへ出荷して販売していることを説明しました。

児童はいろいろな学習を関連づけて考え発表する場を作り学習を深めていくそうです。



## ～ 米集荷始まる ～

9月17日に1回目の米集荷を行いました。早生品種を706袋集荷させていただきました。今年は、心白粒・乳白粒が少なく、1等米比率は67.4%となり、昨年の同時期に比べ品質はよい結果となりました。



## ぶどう立毛品評会

9月4日に瀬野川農事研究会主催による、ぶどう立毛品評会を広島市職員2名、JA安芸職員2名で行いました。今年は春先から7月上旬までは好天が続き順調な生育となりましたが、7月後半から降雨が多く各圃場ともべと病などを中心に病害が多い年となりました。

夏の天候不順によりぶどうの生育も遅れ気味となり、例年に比べ酸の抜けが遅くなっていましたが、各圃場とも品質は甲乙つけがたく、これから本格的に出荷を迎えられる状況となっております。



## 講習会を開きました!

8月19日タマネギ講習会

8月25日 農業委員会と農地パトロール

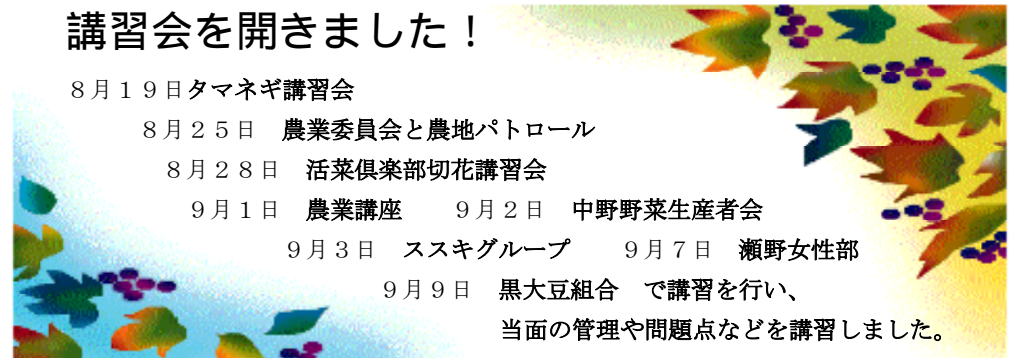
8月28日 活菜倶楽部切花講習会

9月1日 農業講座 9月2日 中野野菜生産者会

9月3日 ススキグループ 9月7日 瀬野女性部

9月9日 黒大豆組合 で講習を行い、

当面の管理や問題点などを講習しました。



# 10月 営農メモ

## 果樹

### 土づくり

土壌中の有機物の消耗は、年間 10a 当たり 500~1000kg と言われています。有機物が少なくなると土壌の保水性、通気性、保肥力が低下して根の伸びが悪くなり、樹が弱ることになります。そこで、毎年 10 月は深耕や有機物の施用による土づくりを行います。(植え付け後数年経った樹)

深耕と有機物の施用の方法は、1 年目は主幹から 1.5m~3m の範囲を 0 時、3 時、6 時、9 時方向の放射状に幅 40cm、長さ 1.5m、深さ 30~40cm の溝を 4 本掘り、完熟堆肥を入れます。翌年からは、ずらして同じような溝を時計まわりに 4 年かけて深耕および完熟堆肥を投入していき、5 年で 1 本の樹を一周するようにします。

完熟堆肥の年間施用量は、10a 当たり 2000kg 以上を目標にします。

果樹は毎年部分的に根を切られ完熟堆肥を投入されることにより、根の若返りと土の保水性、通気性、保肥力を改善して安定した生産をすることができます。

深耕する時の注意として、排水の悪い圃場で 40cm 掘った所に水が溜まるような場合は暗渠排水を行うか、排水できるまでの深さにします。水が溜まると根腐れを起こします。

地上部は、毎年剪定を行い枝の更新(若返り)をしていますが根はなかなか枯れていません。計画的に樹勢管理を行います。



## 水稲

### 適期刈取りのポイント

① 適期刈取りは穂軸の枯れ具合でなく、籾の黄化を見て判断してください。

※ 刈取り開始期の黄化率は80~90%

② 刈取り 5~7 日前まで通水して胴割米を防ぎましょう。

③ 籾水分に応じた適正な乾燥を行ってください。

☆ 稲作ごよみの「刈取り適期の判定」を参考にして、刈り遅れないようにしましょう！☆



## 野菜

今月はホウレンソウ、漬菜類、ネギ類、エンドウ、ソラマメなどが播種できます。アブラナ科作物は 10 月中旬以降に播種すると生育が停滞し、収穫できなくなる物もありますので、遅播きにならない様にして下さい。

豆類は早播きすると苗が生育しすぎて霜で枯死することがありますので月末頃に播種しましょう。



### 圃場

キャベツやはくさいなどでは結球始めに追肥と防除を行いましょう。

馬鈴薯やニンジンでは元寄せを行い、肌が変色しない様に努めましょう。

なす、ピーマン、オクラなどは霜にもよりますが 11 月下旬まで収穫が行えますが、気温が下がってくると収量や品質が悪くなりますので、10 月上旬~中旬頃に収穫を終わらせ、豆類やたまねぎ、春キャベツ、トンネルダイコンなどの植付け準備をするのもよいかと思います。



### 病害虫

例年は暖冬傾向でネキリムシやヨトウムシなどの被害が 12 月頃まで続きましたので注意しましょう。被害がひどい場合には登録があればガードベイト A やジェイエース粒剤などを株元散布しましょう。

台風通過後あぶらな科作物では黒腐病などの病気が多発する事がありますので、Z ボルドーなどを散布しておきましょう。

葉菜類、根菜類の野菜では農薬散布時期が、散布後から収穫までの日数が長い物が多いので散布前にはラベルを確認してから散布を行いましょう。特に収穫が近づいた時には注意して下さい。

## 稲刈り後の雑草対策

近年、水田でクログワイ、オモダカ、ミズカヤツリ、イボクサ、セリなど、いわゆる難防除雑草が増えていますが、その中でもクログワイ、オモダカは、塊茎で増えるため水田防除では、なかなか防除しきれないのが現状です。そのため、秋の刈跡防除として、下記の薬剤の散布をおすすめします。

・クロレート S : 水稲刈取跡に全面土壌散布。20~25kg/10a。

・ラウンドアップマックスロード : 使用量 500~1,000 ml/10 a

通常 50~100l の水に希釈して総使用回数 1 回。

※クログワイには、緑色の茎葉部に 50 倍液を十分に散布してください。

※クロレート S を散布する圃場は、土壌改良資材散布との間隔を 1 ヶ月程度空けてください。